



静岡 DWAT 出前講座報告 伊東市総合防災訓練

- 日 程：令和5年9月3日（日）9：00～11：45
- 会 場：伊東市立北中学校 体育館
- 参加登録員：(福) ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会 川奈臨海学園 山田善紀 氏、瀬戸純也 氏
(福) 熱海いでゆの園 姫の沢荘 菅野幸宏 氏、臼井淳兵 氏
- 参 加 者：地域住民、中学生など 約100名

【内容】

昨年度に引き続きの開催となった伊東市総合防災訓練では、消防・警察による救助訓練、自衛隊による炊き出し訓練、医師会による災害時医療講話などを実施。静岡 DWAT は、避難所設営訓練の中で令和3年度熱海派遣の活動報告と啓発用パネルの展示、ベルカ、レスキューボード、JINRIKI を活用した移送支援用具の体験を担当しました。

移送支援用具では地域住民や中学生が積極的に体験してくれて、幅広い方々に静岡 DWAT を知っていただく貴重な機会となりました。

活動の様子は9月4日の伊豆新聞に掲載されました。(別紙参照)





伊豆新聞本社
伊東市鎌田1290-6
〒414-0054

電話 0557(36)1234
FAX 0557(36)3969 編集
FAX 0557(36)2691 営業
伊豆新聞デジタル
<https://digital.izu-np.co.jp>

伊豆の四季を和菓子で描く

石舟庵

<https://www.sekishuan.co.jp/>

避難所設営や消火

総合防災訓練 5300人意識高める



伊東市は3日、湯川区の市立北中をメイン会場に市総合防災訓練を実施した。北中には区民や中学生ら211人が集まり、避難所設営や消火体験などを通して防災意識を高めた。市内全体では約1万5000人が訓練に参加した。

相模トラフを震源とする大規模な地震が発生した想定で訓練した。北中では体育館に避難所を使う備品を運び込み、組み立て式の間仕切りや簡易トイレを展示して使い方を学んだ。けが人や足の不自由な人を運ぶ簡易担架の体験もあり、中学生が力を合わせて人を持ち上げた。

参加した青木智宣さん(北中2年)は「避難所の間仕切りは、想像より広くプライバシーも確保できた。いい体験ができた」と話した。地震体験車や自衛隊による炊き出し、消防と警察合同の救助訓練もあった。

小野達也市長は「自衛隊、消防、公助の三つを基本に、災害に強い町づくりを進めよう」とあいさつした。湯川区での防災訓練実施は、コロナ禍や雨天の影響で4年ぶり。原景区長は「訓練に参加し、少しでも災害対応を身に付けてほしい」と述べた。

他会場では避難訓練や資材点検をした。一部の区は8月27日、9月2日に実施した。

体験、交流で福祉理解

4年ぶり「ふれあい広場」



第42回伊東市ふれあい広場(市社会福祉協議会、実行委員会主催)が3日、桜木町の市健康福祉センターで開かれた。来場した市民は体験会や交流イベントを通して、福祉への理解を深めた。

コロナ禍と台風の影響で4年ぶりの開催。市内の福祉事業所やボランティアなど約50団体ブースを設けた。施設利用者の作品展示や販売、活動を紹介した。

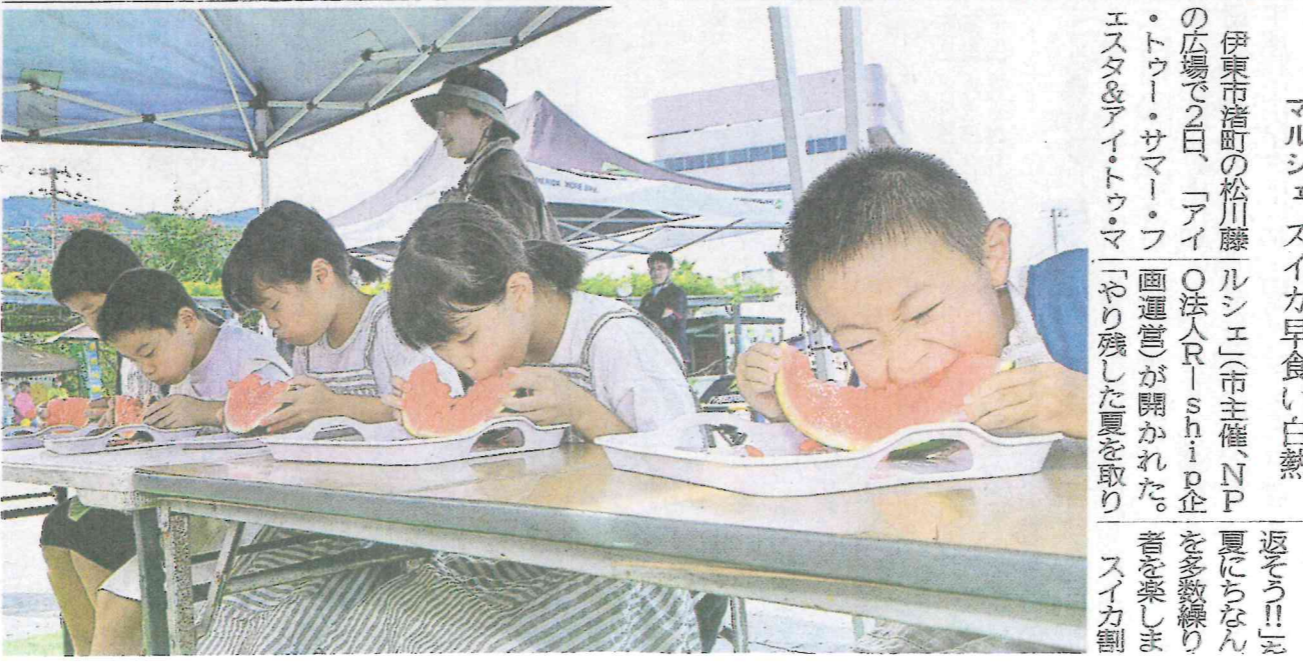
第2回は「ふれあい広場」が3日、桜木町の市健康福祉センターで開かれた。来場した市民は体験会や交流イベントを通して、福祉への理解を深めた。

初めて手話を体験した石井青さん(伊東小5年)は「困っている人を助けられるように、今後も勉強したい」と話した。市社協副会長の竹田裕慶さん(66)は「市民に障害者や高齢者の支援について知ってもらい、場を提供できて良かった」と語った。収益の一部は、社協

半、市民活動団体を対象とした無料相談会を市役所で開く。相談は1回50分で、テレビ会議システムを活用した相談もできる。

伊東の都甲豊子さんが対応する。希望者は14日まで用紙へ必要事項を記入し、ファクスかメールで申し込む。問い合わせは市企画課(電0557(32)1062)へ。

一心不乱に「がぶり」



マルシェスイカ早食い白熱

伊東市清町の松川藤ルシェ(市主催、NPOの広場で2日、「アイ・オー法人Riship企業・ツアー・サマー・フ画運営が開かれた。エスタ&アイ・トゥ・マ」やり残した夏を取り返そう!!」と夏にちなんで多数練り音を楽しませスイカ割

「ガイド」「アプリ」判断一助に



救急車の適正利用を呼び掛ける消防署員=伊東市桜木町の伊東消防署

9日「救急」

駿東伊豆「救急の日」

救急の日(9日)を呼び掛ける。同本部は管内の全口約41万人、台の救急車急病人を病にあり、現の時間もあるという。2022

伊豆の天気

旧7月21日
あすの 日出 5:19
日入 18:06